

第71回日本PTA全国研究大会広島大会参加報告

- 1 日時 令和5年8月25日(金)～26日(土)
- 2 参加者 浜松市P連10名参加(内単位PTAより2名)
- 3 会場 分科会(25日) 第3分科会 地域連携 リーガロイヤルホテル広島
全体会(26日) 広島県立総合体育館

4 内容

(1) 分科会報告(第3分科会 地域連携)

研究課題：学校教育と地域の連携をどう進めていくか 子供の成長を地域とともに

①基調講演 山川肖美氏(広島修道大学教授)

「地域とともにある学校ーシビックプライドによる架橋ー」

○ 子どもたち、保護者、地域がともに豊かに育ち続けるために、どのような、どのように協創的な関係をつくっていけばよいか考えたい。

・ 保護者の意識

(ベネッセ・朝日新聞調査) 保護者は学校に満足しているか。→ 満足度は上がっている。

・ 保護者・地域の人々の学校への関与

始まりはPTA活動。平等の立場で参加する。学校におけるガバナンスへの保護者・地域の参画。

・ 学校運営協議会の設置

・ ソーシャルキャピタル・・・つながり作り、つながりは公共財

・ シビックプライド・・・都市に対する市民の誇り 幸福度を構成する要素における市民の位置。シビックプライドは伝播する。シビックプライドをみんなで見つける。よい地域の条件(仕事・住環境)

②実践発表 立石克昭氏(府中市コミュニティスクール連絡協議会長)「地域の中に学校を 学校の中に地域を」

OKではなく Let's。企画運営委員会の役目は、承認したら一緒になって育てる。

③討議

コーディネーター：山川肖美氏。パネリスト：原完次氏(島根県PTA联合会元会長)、立石克昭氏、梅谷友美氏(鳥取県倉吉市立関金小PTA副会長)

Q 地域活動をして子どもに変化があったか

立石：企業体験を企画した。子どもたちの声が大きくなった。ロゴマークを作った子が自信を持った。自分でHPを作る。言われなくても11時までやっていた。親がクレームを言ってきたことがあった。でも、うれしいクレームだった。

原：得意分野を見つけて取り組んだ。

梅谷：どこで会ってもあいさつができる。

Q 地域・学校に変化があったか

原：地域の呼びかけをしたところ、小学校から中学校へ取り組みが広がった。

立石：ダンスの企画に取り組んだ。子どもたちに何をやりたいか考えさせるようにした。キャリア教育で模擬会社の授業を取り入れたとき、企業経験のない先生方には、抵抗感があった。しかし、やり始めたら一生懸命やってくれた。子供の教育のためには、先生方のモチベーションを上げることが大切だと思う。学校だけで教育をする時代は終わった。地域で育てる。

梅谷：年々応援が増えている。

山川：社会教育は地域をほぐしていく。

Q 困ったことは？

立石：自分は最初CSには協力しなかった。しかし、やり始めたら、CSは地域がよくなる取組だと感じた。

Q 言いたいことは？

原：勢いで松江城の堀の清掃をした。継続してやるということが難しい。しかし、とりあえずやってみること 楽しむことが大切だと思う。

梅谷：役員決めをどうするか。自分は会合を減らした。いい方法があったら教えてほしい。

立石：広島には、「いこる」という方言がある。炭火が燃えてきた。という意味である。自分がいこる(燃える)ことが大切だと思う。

地域をよくする、学校をよくする、子どもたちをよくするという共通の目標に向かって、学校、保護者、地域が手を取り合っていくことの大切を感じた。CSの中のPTAの位置づけをもう少し詳しく知りたいと思った。

(2) 全体会報告

① 歓迎アトラクション

広島ジュニアマリンバアンサンブル

② 挨拶

○ 後藤豊郎日P会長：絶えず変化する時代に私たちPTAが、大人の学びとして挑戦し、新しい形や価値観を創造していく。

○ 山本浩二実行委員長：自身が学びの変革を進めていく。

③ 講演会

○ 講師 黒川伊保子 氏（感性リサーチ代表取締役、人工知能研究者）

○ 演題 「心のトリセツ ～「逃げ癖」を「意欲」に変える脳科学～」

・ 脳を人工知能研究の視点で電気回路装置として研究。これからは人工知能と生きる時代。

・ まず「遊」より始める by 為末大氏

何事も「まず、好奇心の赴くままに」が大事。有名校の選手は、世界で活躍する人が出ない。無名校の選手が世界に通用するという事実。よくできた型で合理的な指導をすれば「優秀」「一流」までは手っ取り早く成長する。超一流になるためには、壁を乗り越える必要がある。脳と骨の使い方が一人一人違うので、最後は、自分と向き合って微調整する必要がある。自分独自の型を見つけ

なくてはいけない。

- ・ 監督が怒ってはいけない大会」by 益子直美
責任や結果で追いつめると「余計なことを考えず、がむしゃらに突き進む神経回路」を活性化する。一方で、「発想力、対話力、長期の戦略力」の回路を阻害する。20世紀はそれでよかった。21世紀は、時代遅れになる。
- ・ 人工知能の時代は容赦なく始まった。
人間の仕事は「命題を探し出すこと」(その脳独自の発想力)とAIコミュニケーションに集約する。必要なのは、発想力と対話力。子どもたちに「感性の翼」を。脳を知れば、人生は変えられる。

I 人生が思い通りになる対話術

とっさの思考回路には2種類ある。「ことはいきさつ(プロセス)」を反芻して気づきを起こそうとする人(そういえばあの時)と「今できること(ゴール)」に意識を集中して、さっさと動き出そうとする人である。

この回路には、基本の優先側があり、立場によって切り替わる。2つのペアがそろえば鉄壁のペア。しかし、この2人はコミュニケーションがうまくいかない。わたしは、機械の対話について研究をしてきた。心理学ではなく、機械信号の研究。研究の過程でとっさの思考回路には2種類あることに気づいた。

今できること派

問題解決型 結論を急ぐ 今
一刻も早く問題を取り除きたい
したいのは問題点の指摘

ことはいきさつ派

共感型 思いを語る 過去・未来
感情に導かれて記憶を再体験
欲しいのは共感とねぎらい

コミュニケーション・ストレスの正体は、「とっさの脳の使い方」の異なる二者間で起こるミゾである。共感型から見ると相手は思いやりがない。問題解決型から見ると相手は気が利かない。

・ 対話の奥義

人の話は共感で聞く。→ わかってくれる。余裕があると思われる。

自分の話は結論から話す。→ 話が早い、頭がいいと思われる。

とにかく、「いいね」か「わかる」で受ける。

ポジティブ・提案系…「いいね」「わかる」

ネガティブ・相談系 … 「痛かったろうね」「それはつらかったね」「そうか、そうなんだ」「そんなことあるんだね」

心の通信線+事実の通信線の両方をつなげておく。いきなりの「ダメ」は自己肯定感を下げってしまう。日本語は、主語をつけずに「ダメ」「無理」という言い方をする言語である。暗黙の主語は「世間」つまり、上から目線の全否定になる。あるいは「あなたはダメ」ととられる。

「いいね」受けは国際標準。英語やイタリア語など欧米のビジネストークでは、相手を否定するときも「いいね」で受けることが多い。親子でも「あなたのファイトは買うわ。でも母さんは心配なの」(「大草原の小さな家」)言葉の使い方しだいで、人生の敵になるか、師になるか。

心理的安全性。グーブルの社内調査で、「なんでもないこと(ちょっとした気づき)をしゃべれる安心感」が最も大切という発表があった。「言うとなんか嫌な思いをする」と感じて発言を止めると、脳は働くことをやめる。

無理な仕事を断るときは、出来ること(結論)から言う。「火曜日までに8割できます。すべて終わらせるには、さらに2~3日かかります。私は、これで「できる」という評価をもらった。

II ヒトの「とっさの動作」には4種類ある

驚いた時に、①跳びあがる人 ②肩をあげて固まる人 ③肩を落として身構える人 ④のけぞりながら後ずさりする人。①②は上体を上げるタイプ。③④は上体を低くするタイプ。上体を上げる人は指先に力と意識が集中する(指先タイプ)。上体を低くする人は、手のひらに力と意識が集中する(手のひらタイプ)があり、それぞれ運動の特性がある。

指先タイプは、腰をかがめる 重心が前にある スピードが出る。

手のひらタイプは、ひざを折る 重心が後ろにある パワーがある。

指導者は弟子の能力を見抜く必要がある。運動のタイプを知らないと適切な指導ができない。

指先タイプは、先へ先へと気がせく。段取り上手で勤がよく何をするにグッドビギナー。しかし、世間をなめ、いらついて途中で投げ出す傾向がある。

手のひらタイプは、貯めが要る。貯めが不可欠なスロースターター。しかし、飽きない、あきらめない、タフでやさしい。

人生に劣等感なんて要らない。どうしてもできないこと、何度も同じ失敗をくり返すことがあれば、やり方を変えればいい。憧れの先輩のようにできなかつたら、必ず自分にできて、その人にできないことがある。

III 失敗を恐れない

失敗を未然に防ぐと、脳はセンスが悪くなる。失敗したときには、「私も〇〇してあげればよかった」と声を掛ける。

- 失敗3ヶ条
- ・失敗を他人のせいにはしない。
 - ・過去の失敗をくよくよ思い出さない。
 - ・未来の失敗をぐずぐずいわない。

「妻のトリセツ」などの著書やNHKラジオのパーソナリティとして活躍される黒川氏の講演は、楽しみにしていましたが、期待以上の笑いと納得の講演でした。親子関係、夫婦関係、職場の人間関係を円滑にするヒントがたくさんありました。

(文責：大澤)